

主催者挨拶

皆様こんにちは。公益財団法人日本海事センター会長の宿利正史です。

本日の第37回海事立国フォーラムには、お足元の悪い中、この会場にも、またオンラインでも、大変多くの皆様にご参加いただいております。感謝申し上げます。

本日は公務ご多忙の中水嶋智国土交通事務次官にお越しいただいております。この後ご挨拶をいただきます。誠にありがとうございます。また、6名の講演者及びパネリストの皆様には、ご多用の中本日のフォーラムにご登壇いただきますことに心より感謝申し上げます。さらに、このフォーラムの開催に当たり、国土交通省海事局、日本船主協会、日本造船工業会、日本内航海運組合総連合会など多くの関係者の皆様に多大なご協力を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日本海事センターは、海事分野の中核的な公益財団法人として、国内外の動向に的確に対応しつつ、海事に関する研究調査や政策提言、海事公益活動に対する助成事業などを行っています。これらの活動の一環として、2007年より例年2回、東京と東京以外の都市において海事立国フォーラムを開催しており、昨年は2月に東京で、11月に長崎で開催いたしました。

さて、昨今の海事をめぐる状況は極めて厳しく、先月末からの米国及びイスラエルによるイランに対する攻撃とその報復攻撃により、ホルムズ海峡が事実上封鎖状態となっており、現在も、日本関係船舶が45隻、日本人船員が24人、ペルシャ湾内に停泊を余儀なくされ、正に危機的な状況にあります。また、輸入原油の9割以上を中東地域に依存する日本にとって、エネルギーの安定供給の面からも極めて深刻な状況です。

この数年を振り返ってみましても、海事産業は、ロシアによるウクライナ侵

攻や、中東情勢の悪化による紅海及びスエズ運河の航行の自粛と喜望峰への迂回など、国際情勢の急激な悪化や地政学リスクの顕在化により、困難な局面に度々晒され、かつてなく厳しい状況に置かれています。

他方、海事分野の脱炭素化につきましては、昨年 MARPOL 条約の改正案の採択が延期となり、本年11月に国際海事機関(IMO)において、改めて採択のための審議が行われることになっています。

また、海事人材の不足は一層深刻化しており、計画的な海事人材の確保・育成や、GX・DX に対応した高度な海事人材の育成等が不可欠な状況です。

日本海事センターでは、2 年前の2024年2月にこの場所で開催した第33回海事立国フォーラムで、「海事産業の強化を展望する」というテーマをとりあげました。当時の海谷国土交通省海事局長、明珍日本船主協会会長、金花日本造船工業会会長、そして本日もご講演いただく栗林日本内航海運組合総連合会会長ほかの皆様のご登壇を得て、活発な議論を展開していただき、日本の海事産業が直面する様々な課題や海事産業の強化のために今後必要となる取り組みについて、概ね関係者間で認識が共有されました。

そこで、この年の12月に、当センターに産官学の代表者30名からなる「海事産業委員会」を新たに設置し、日本の海事産業の競争力強化方策等について精力的に検討を進めてきました。

この検討過程で、2025年4月に米国通商法301条に基づく中国建造船舶等に対する入港料徴収措置の発表や、日米関税交渉の一環として10月に金子国土交通大臣と米国ラトニック商務長官による「日米間の造船についての協力に関する覚書」への署名、11月には「日本成長戦略本部」が設置され、「造船」、「港湾ロジスティクス」、「海洋」が戦略分野とされ、12月には「造船業再生ロードマップ」が公表されるなど、海事をめぐる様々な動きがありました。また、先月13日には米国政府から「Maritime Action Plan」が発表され、

今後の動向にますます目が離せない状況です。

海事産業委員会ではこれらの動きを踏まえつつ、委員会を9回開催し、さらに、委員会の下に設置した「内航海運ワーキンググループ」を4回開催して、広範かつ精力的に議論を重ね、本日「日本の海事産業の再興に向けた提言」として、その成果をとりまとめました。後ほど、海事産業委員会で委員長を務めいただいた早稲田大学の河野真理子教授からご紹介いただきます。

また、明日午後にこの提言を金子国土交通大臣にお渡しして、政府として日本の海事産業の再興に向けて強力に取り組んでいただくようお願いすることとしております。

本日の海事立国フォーラムでは、日本の経済社会を支え、かつ、経済安全保障の第一線を担う海事産業について、日本の経済社会の構造変化と国際情勢の大きなうねりの中で、いかにしてその再興を図るか、海事産業委員会の提言を踏まえつつ、皆様と一緒にしっかりと考えてみたいと思います。

最後になりますが、本日の海事立国フォーラムへの皆様のご参加に対し、改めて御礼申し上げますとともに、本日のフォーラムが、皆様にとりまして、今後の取組への有益な示唆に富むものとなり、また交流の場として実りある機会となりますことを祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

(以上)